

講経論義法要にて問答の内容を精義される天台座主猗下(左)

十月二十三日、比叡山大講堂で恒例の天台大師を偲ぶ法要、天台会が執り行われました。伝教大師が延暦十七年(七九八)に、高祖天台大師への報恩のために法華十講を始められたのを濫觴とします。現在の天台会では、出題のある講経論義と恒例の法華十講、また翌日には曼荼羅供法要が行われています。講経論義は、予め論題が出されてその問題について問答を行い、出題者の探題がその内容を吟味し、天台の解釈を明らかにされるものです。論義は現代の大学の口頭試問や研究発表に似ています。真理を明らかにするための論義ですから、時には激しいやり取りも必要とされました。

さて、今回の講経論義で森川宏映探題座主猗下から出題された問題は「爾前分身」とい、『法華経』見宝塔品第十一に関わるものでした。ここで云われる宝塔とは、『法華経』の前半と後半をつなぐ重要な役割を果たします。この塔の中には多宝如来がおられます。この如来は、修行時代に「今後、『法華経』の教えが説法されたならば、いつでもどこでも必ず現れて、その正しさを証明する」という誓願を立て仏陀となりました。その誓願の通り、お釈迦さまが靈鷲山で『法華経』をお説きになられた時、目の前に多宝塔と共に出現したとされます。

さらに、宝塔の出現を目の当たりにした人々に塔の中の多宝如来の姿を見せるために、お釈迦さまは、十方世界に散らばって説法している「分身の釈迦牟尼仏」をこの地に集合させます。これは、あらゆる場所に様々な方法で説法を続けているお釈迦さまの分身が存在していることを示しています。しかしながら、この様な分身の釈迦牟尼仏の存在は、『法華経』が説かれるより前に説かれた「爾前」のお経の中にも説かれています。そこで、「爾前の教えで説かれた八分身」と、多宝塔を開くために集合した八分身との違いは何か」これが論義の問題です。この問題を通して『法華経』の教えと「天台」の解釈をしっかり研鑽することが求められます。

論義を重んじた比叡山中興の祖、第十八代座主良源(元三大師)は、遺言で「若し報恩の志がある者は、必ず講説論義を修すべし。他善を行うべからず。(論義による善)を広く一切衆生に回向し、煩惱を断除し、智慧を発生し、速やかに仏位に至らしめん」と言われています。

比叡山における「論義」は、祖師に対する重要な報恩の勤めであると同時に、一切衆生のための仏道修行として最も勝れた善行であると示されています。



発行所
比叡山時報社
〒520-0116
大阪府大阪市本町4-22-2
電話 077-578-0001
振替 00970-2-9732
宗教法人延暦寺事務所
定価 1部110円 年1200円

延暦寺広報

叡山講福聚教会 会報

年度会費(3000円)中に
会報(比叡山時報)
購読料を含む。

令和3年比叡山から
発信する言葉
自他
同
心
自
他
自
心
を
同
じ
く
す



こちらから

ご購読は

祖師報恩の論義 ——人々のために——



慈恵大師（良源）坐像

一軀 木造彩色 鎌倉時代・十二世紀 東京・深大寺蔵（像高メートル近くにもな日本最大の像彫刻）
△厄除け大師△に相応しい圧倒的な迫力 展示会場：東京

特別展「最澄と天台宗のすべて」開催



国宝 聖徳太子及び天台高僧像

十幅 絹本着色 平安時代・十一世紀 兵庫・一乗寺蔵

（本紙令和三年正月号表紙にも掲載された最古にして最美の伝教大師肖像画を含む宝物）

※原品の展示期間は各幅ごとに異なります。写真は一部複製も含まれています

重 薬師如来立像

一軀 木造素地、截金 平安時代・十一世紀 京都・法界寺蔵
（伝教大師自刻の薬師如来像のお姿を今に伝える極めて重要な尊像 展示会場：東京 京都）



大師のご遺志を六つの章で

宗祖伝教大師は「悟りに至る道はすべての人に開かれてい」という平等思想を説いた『法華経』に心懸かれ、この教えを確とする天台宗を我が国でひろめられました。この度の特別展「最澄と天台宗のすべて」では、日本天台宗の開宗から、東叡山寛永寺を創建して大立の世を支えた江戸時代に至るまでの天台宗の歴史を紹介し、秘仏をはじめ、天台の名宝が集う貴重な機会となっています。

伝教大師は一隅を照らす「国王」となる人材の育成に心血を注がれ、その遺志は、弟子たちに受け継がれ、平安時代以降には「大教団」となり全国へと広がって行きました。

同展ではテーマを第一章 最澄と天台宗の始まり 祖師ゆかりの名宝 第二章 教えのつらなり 最澄の弟子たち 第三章 全国への広まり 各地に伝わる天台の至宝 第四章 信仰の高まり 天台美術の精華 第五章 伝教大師大遠忌を記念するにあふらしい展覧会となっています。

第六章 天台思想が生んだ多様な文化 現代へのつながり 江戸時代の天台宗の六つの章に分け、天台宗総本山である比叡山延暦寺を始め、各地で守り継がれてきた国宝・重要文化財を多く含む宝物を一堂に会し、これまでにない規模で紹介するものです。

また、各寺院で「秘仏」とされ、数千年に一度の御開帳や、これまで公開されてなかった御尊像を多数展示する、まさに伝教大師大遠忌を記念するにあふらしい展覧会となっています。

比叡山と天台宗諸寺院等の秘仏・至宝を一堂に現代に継承される伝教大師のみ教え



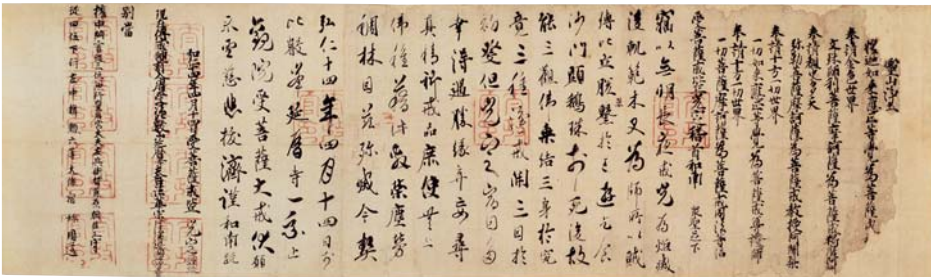
重文 薬師如来及び両脇侍立像

三軀 木造素地（薬師如来）平安時代・九～十世紀、（日光菩薩、月光菩薩）平安時代・十一～十二世紀 東京・寛永寺蔵（比叡山の再現を意図して開創された東叡山寛永寺の秘仏ご本尊） 展示会場：東京



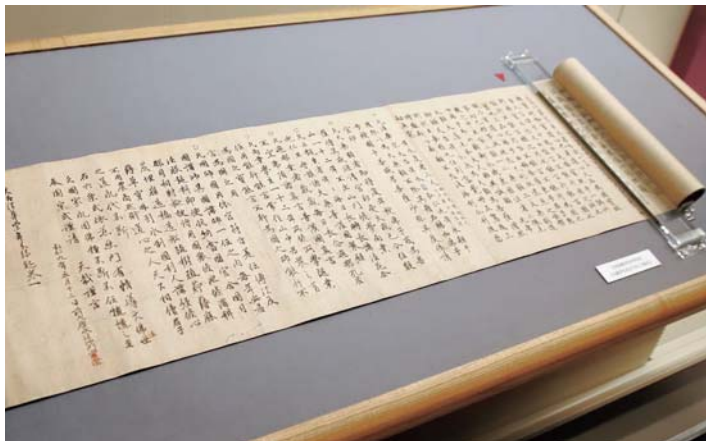
重文 慈眼大師（天海）坐像 康音作

一軀 木造彩色、玉眼 江戸時代・寛永十七年（1640）栃木・輪王寺蔵（比叡山の復興と関東における天台宗の隆盛を導いた稀代の傑僧慈眼大師の最古の像） 展示会場：東京



国宝 光定戒牒 嵯峨天皇宸筆

一巻 紙本墨書 平安時代・弘仁十四年（823）滋賀・延暦寺蔵（三筆に数えられる嵯峨天皇による気品あふれる御宸筆） 展示会場：東京



国宝 天台法華宗年分縁起（部分）最澄筆
一巻 紙本墨書 平安時代・九世紀 滋賀・延暦寺蔵
展示期間：10月12日（火）～10月31日（日）（国宝）となる人材育成を目指した『山家学生式』、まさに比叡山の至宝 展示会場：東京 九州



重文 山門再興文書のうち

徳川家康請文

三通（巻八七通のうち） 安土桃山時代・天正二年（1586） 滋賀・延暦寺蔵
（織田信長の比叡山焼き討ち後の比叡山再興に関する古文書、延暦寺別当宛て再興請願に対して八関白秀吉の下知状なくしてはお受けするに憚りがある」と記す 展示会場：東京



延暦寺総本堂 国宝根本中堂内陣中央聖殿の「不滅の法燈」を再現。僧侶が立ち入ることのできない内陣から見た法燈を体験できる。

声明ライブコンサート開催 YouTubeでライブ配信

比叡山親善大使 森友氏歌唱奉納



東京教区の僧侶が8名出仕して、「列讀」「唄」「散華」「対揚」「諸天讃」等の代表的な天台声明を約40分かけて唱え、場内には優雅で流暢な旋律が響き渡った。写真上、続いて阿部昌宏天台宗事務総長と比叡山親善大使を務めるアーネスト森友風士氏の対談が展開された。

「書は、その人の人柄を写す」と聞いたことがある。伝教大師さまの真筆のなかにお優しい人柄が見ることができた」と、内覧の感想を述べた。また、「不滅の法燈」の再現について、「毎年根本中堂で（祈りの集い）を開催している。ここへ何かを感じられ

た人はぜひ比叡山で本物の法燈を見て欲しい。この何十倍もの厳かさを感じることができると語った。その後午後8時半に開始した第2部では、森友氏がボーカルを務めるロックグループ「T-BOLAN」のヒット曲の披露を始め、「祈りの集い」や昨年からの1年を駆け全国に伝教大師の祈りと願いを届けた「灯47全国行脚」



対談では「比叡山は一泊して感じる場所」との共通認識を確認



熱唱する森友氏